

平成30年度第2回倉敷市スポーツ推進審議会 議事録

日時 平成31年1月25日（金）15時00分～16時00分
会場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室
出席者 審議会委員：向井副会長・珍行委員・松原委員・日下委員・宮川委員・
矢田貝委員
事務局：原田局長・三宅部長・三宅次長・山本課長・岡課長主幹・
千代延主幹・三宅主事・竹並主事
教育委員会：荻野主任
保健福祉局：橘鷹課長
傍聴者 0名

1 開会

本審議会に初の出席となる日下委員を事務局から紹介。

開会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 向井 彰

2 報告事項

報告第1号 倉敷市スポーツ振興事業団と倉敷市体育協会の統合について
事務局から、両団体の統合について進捗状況を説明。

【事務局説明要旨】

公益財団法人倉敷市スポーツ振興事業団と一般財団法人倉敷市体育協会が統合し、平成31年4月1日から、新団体が公益財団法人倉敷市スポーツ振興協会という名前で発足されることになり、準備を進めている。両団体が統合に至った経緯としては、昨年2月6日に本市のスポーツ関係団体のトップの方にお集まりいただき、本市のスポーツ振興について市長と意見交換をしていただく倉敷市スポーツ推進会議を開催した中で、市長から、「総合的なスポーツ振興体制の充実を図るうえで、事業団と体育協会という2つの大きな団体が一体化して、本市のスポーツ振興の核となる組織を形成する必要がある

と考えている。オリンピックを控え、市民の皆さんがスポーツへの関心を大変高めている中で、両団体の統合への話し合いを進めていくべきタイミングではないかと思っている。」との提案があり、出席者からもご意見をいただいたところ、全員一致で統合に向けて進めていきたいと思いますと了承をいただいた。4月以降、統合に向けて両団体と市の三者で統合準備会を6回開催し、話を進めてきた。10月8日に合併契約書の締結が行われ、12月7日には岡山県からの認定を受けた。今後、新団体である倉敷市スポーツ振興協会と本市が一体となって、本市における更なるスポーツの振興を図っていきたいと考えている。

3 議事

議案第1号 平成30年倉敷市体育章受章候補者の選考・推薦について

資料に基づき事務局から説明。以下のとおり、承認をいただいた。

- ・体育振興功労者 5名
- ・優秀競技者 32名

以下、出席者意見。

【向井副会長】

競技団体によっては、毎年推薦が挙がっているところと、まったく推薦がないところがある。推薦が出てこない団体に本当に対象者がいないのかという思いはある。

【宮川委員】

現在、大学で学生の功労賞を表彰する際に、例えば顧問の先生が推薦をする時には、出るところはたくさん出るし、出ないところは全く出ない。もしかしたら、漏れがあるのではないかと思う。

議案第2号 倉敷市スポーツ振興基本計画（平成30年度事業）の取り組みについて

資料に基づき事務局から説明。承認をいただいた。

【事務局説明要旨】

本日（1月25日）、スキー種目のプレス発表があり、倉敷市の出場選手が1名との

発表があったため、平成30年度の倉敷市関係選手団人数は、157名となった。

進行管理票については、平成30年度の中間報告であり、最終結果を来年度1回目の審議会でご報告させていただく。平成30年7月の豪雨災害の影響から中止を余儀なくされた事業が多数あり、全体的に目標値を下回っている。

議案第3号 次期倉敷市スポーツ振興基本計画について

資料に基づき事務局から説明。

【事務局説明要旨】

現在の倉敷市スポーツ振興基本計画が平成23年度から平成32年度までの10か年計画であり、今年度第1回目の審議会から、次期スポーツ振興基本計画についての協議をしていただいている。

次期スポーツ振興基本計画に市民の意見を反映させるため、市民アンケートの実施を予定しており、以前実施した市民モニターアンケートよりも規模の大きいもので、2月中旬から3月中旬にかけて、市内の3,000人（高校生以上）を無作為に抽出し、実施する。アンケートの分析を依頼する川崎医療福祉大学健康体育学科と連携して設問を作成し、事前に皆様にご報告し、意見をいただいた。いただいた意見もふまえて、ご審議をお願いしたい。

以下、出席者意見。

【松原委員】

設問32は事業団と体育協会が合併した新団体に何を望みますかとなっている、設問37は市のスポーツ行政に対して何を求めるのかという質問になっている。一般市民からは、事業団と体育協会、倉敷市の立ち位置がそれほど明確になっていないだろうと思われる。設問37で一括で問いかけ、いただいた回答をスポーツ振興協会の担当と市の担当にわければ良いのではないかと思う。

【宮川委員】

内容的にはそれで良いと思うが、せっかくの機会なので例えば設問37に事業団と体育協会が統合し、新たな取り組みが始まるといった文言を入れることで、アンケー

トの回答者が意識されるのではないかと思う。内容的には同じだと思うが、問が消えるのがもったいないのではないか。

【事務局（山本課長）】

4月1日に新団体が発足することを広く周知するということをふまえながら、設問32を含めた文面を設問37で問いたいと思う。

【松原委員】

設問34について、指定管理者としてできる業務の領域と、施設の設置者として倉敷市がすべき領域がある。この選択肢の中には倉敷市が主体的に取り組むべき内容が含まれているので、それを指定管理者がやるべきことだとの認識違いが生じる可能性がある。「1. 利用しやすい料金設定」には条例が絡んでくる。また、「6. 安全に利用できる施設の設備」や「7. 施設のバリアフリー化の促進」については、指定管理者でどうにかなる問題ではなく、市に主体的に取り組んでいただきたい内容である。

【向井副会長】

1. 6. 7の選択肢をどこにもっていくか。この設問から外すのは簡単だが、選択肢に含まれているということは、聞いておきたい事項ということ。

【松原委員】

指定管理者に望まれていることを聞くための設問ということであれば、選択肢の3つを外しても問題はないと思う。

【宮川委員】

アンケートに回答される方が、指定管理者制度にすごく意識がある方は今のようなことを考えられるかもしれないが、そこまで思われなくてもいいかもしれない。設問34が、指定管理者としての対応について望まれることを問うのであれば、先程の選択肢を外せば良いと思うが、施設についての意見を吸い上げたい場合は、指定管理者制度という言葉を使わない方が良いのではないかと思う。

【珍行委員】

使用する側からすれば、市の施設に変わらない。

【松原委員】

そういった視点から言えば、市のスポーツ施設に関して何を望みますかとして、すべての選択肢を残し、吸い上げたものを市の業務と指定管理者の業務に振り分けるべきだと思う。

【事務局（原田局長）】

現在、1つの設問で、施設と指定管理者制度の2つの内容を問う形になっている。純粹に施設に何を求めるかを聞きたいと思っている。設問を修正させていただく。

【宮川委員】

モニターアンケートの属性をみると、モニター登録をされている人のみの対象になるので若い人が少ないのは仕方がないが、市民アンケートの無作為の3,000人というのは、本当に無作為なのか、ある程度年齢がばらけるのか。

【事務局（三宅主事）】

男女比と年齢層は地区ごとの人口比に準じた形で抽出していただくようお願いしている。配布自体はまんべんなく行うが、回答がどれほどあるかはわからない。

【矢田貝委員】

アンケートはペーパーで行うのか。QRコードの読み取り等を行わないのか。

【事務局（三宅主事）】

すべてペーパーで行う。

【宮川委員】

モニターアンケートとは違った集計結果になる可能性も有る。モニターはどうしても中高年の方の意見が反映されるので、若い方の意見も聞いてみたい。

【珍行委員】

若い方の意見を聞きたいのであれば、ペーパーで行うと同時に、ホームページ等で回答できる仕組みにしてはどうか。

【矢田貝委員】

モニターの方は関心度が元々高いので、結果も高い数値が出る傾向にある。

【宮川委員】

集計はかなり時間がかかると思う。パソコンでの回答もできるようにするにも、予

算の問題があるのでは。2月中旬には間に合わないので、次回以降アンケートを実施
する際のご意見として伺って、今回はペーパーのみで実施する。

その他、決定事項

- ・設問2 インディアカ → ふらば～るバレーボール
- ・設問8 選択肢5追加：スポーツ推進委員として現在活動中である、または過去
に活動していたことがある

4 その他

事務局から以下について報告。

- ・平成30年7月豪雨におけるスポーツ支援について
→別紙参照
- ・東京2020オリンピック事前キャンプについて
→ニュージーランドウエイトリフティング競技，水球女子日本代表
- ・倉敷市民スポーツフェスティバル in 真備
→2月24日（日）開催予定
- ・瀬戸内倉敷ツーデーマーチ
→3月9日（土）・10日（日）開催予定
- ・体育章・奨励章表彰式
→2月13日（水）15時30分～

5 閉会